

事例9 地域と一緒に子どもを支える「フードドライブ(食品寄付集め)」の取組

●主な事業主体、連携主体

事業主体:NPO 法人 太陽の家

連携主体:桑名市社会福祉協議会、桑員地区労働者福祉協議会

●現状、課題

フードドライブとは、家庭で余っている食品を集めて、食品を必要としている支援団体等に寄付する活動のことです。地域の力を活用し、子どもたちに安定した食の支援を届けることを目的として実施しています。

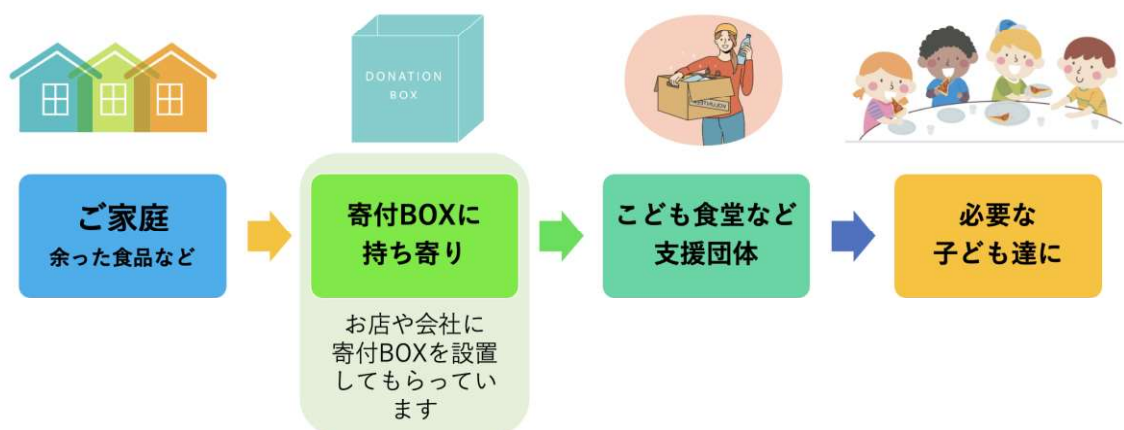
近年、子どもの貧困や食の不安定さが社会課題として取り上げられる中、私たちも子どもの居場所や食品配布などを実施して支援しています。しかし、安定して食品提供を継続するために、食品の確保が課題となっていました。

一方で、地域には子どもを応援したいと考える人や企業が多くいます。また、食べられるのに廃棄されてしまう食品も多く存在しています。それらを支援を必要とする家庭や子ども達に届ける事ができないか、と考えました。地域の家庭や企業と連携して「もったいない」を「ありがとう」に変える仕組みです。

●取組概要

会社や店舗等に食品寄付ボックスを設置してもらい、立ち寄った人が気軽に食品を寄付できる取組です。

そうして集まった食品を支援団体に寄贈し、支援団体が子どもの居場所や食品配布会にて子どもたちに提供します。



●取組におけるポイント

・「寄付しやすい環境づくり」

何かしたいが何をしたらよいのかわからない、ボランティアに行く時間は取れない、という方が関われる接点となりました。会社や店舗等身近な場所に寄付ボックスを置いてもらう事で多くの人の目に触れ、気軽に子ども支援に関わってもらう事ができました。

・「食品の管理の徹底」

子どもの口に入るものなので、賞味期限の確認や破損が無いかなどの確認を行なっています。

また、提供可能食品や残存賞味期限等を例示することでミスマッチが無いように工夫しました。

・「寄付品の偏り」

寄付品が偏ったり子ども向けには使いにくい食品もあるため、活用しやすい食品や今不足している食品等を例示するなど、必要なものが集まりやすいよう工夫しました。

・「関係者の負担軽減」

実施頻度やボックス回収の頻度等を工夫し、関係者に負担が少なく継続できるよう工夫しました。

・「居場所や配布会に来られない家庭にも届くように」

個別配達や、社会福祉協議会様の協力を得て、支所等での食品のお渡しも実施しています。

●今後の展開について

まだまだ知られていない取組のため、広く知ってもらえるよう認知度向上に取り組めます。

また、さらに協力者も増やしていき、安定して食品を供給し続けられるようにしていきます。

今後も地域と協力しながら、持続可能な支援の形を追求していきます。

●本事例に関するお問い合わせ先

NPO 法人 太陽の家

電話番号:0594-87-5169

メールアドレス:info@taiyounoie2015.com